

県道に交差点新設

面瀬地区の皆さんへ、気仙沼市議会9月定例会の結果報告です。昨年度の決算報告をはじめ、本年度の追加予算、復旧・復興事業の工事契約など47議案を承認しました。面瀬地区関係では、市道面瀬川線の改良へ向けた県道への交差点工事が始まります。

(今川 悟)

市道面瀬川線と接続

交差点の新設工事によって、主要地方道気仙沼唐桑線（県道）と新たな市道面瀬川線を接続します。市道面瀬川線は、鶴巻地区の防災集団移転団地から面瀬川沿いを通して片浜地区の県道に続く道路で、平成28年度末の一部完成を目指しています。

県道の面瀬橋は、河川堤防が高くなるために架け替えが必要になりました。現在は橋脚工事が進められています。橋の架け替えによって、新たな県道は下流側に移動します。県道と市道、交差点の位置関係は下図を参照ください。



交差点工事の工期は28年3月末ですが、実際は延長しそうです。工事中は仮設の迂回路を用意します。片浜地区の県道の冠水は、復旧・復興工事が終われば解消される見通しですが、それまでの間は強制排水も検討していそうです。

心配なのは、片浜地区の沿道利用です。橋が高くなることで前後の県道も高くなり、沿道の民有地と段差ができてしまいます。民有地

もかさ上げできればいいのですが、利用方針が決まらないと復興予算は充てられません。このままだとますます活用しにくい土地になってしまいます。JR松岩駅の在り方を含めて、議論する場が必要です。



漁港背後地活用へ調査

追加予算では、復興交付金による漁業集落防災機能強化事業に合わせ、全漁港の背後地の復旧・活用状況などを把握し、漁村振興策をまとめるための調査費用約1800万円、唐桑体育館の耐震化約1800万円などが計上されました。

このほか、南気仙沼小学校前にあった歩道橋を30以下流側に5億2920万円で復旧させる工事契約が認められました。災害公営住宅の完成引き渡しに向けた契約も承認されており、復興は少しずつですが前進しています。

質疑の中では、基金を取り崩しながら何とか運営しているリアス・アーク美術館について、菅原市長は「気仙沼市の負担が増えたとしても継続させる」との方針が示されました。市が管理する防潮堤の工事着手前の検証、卒業生のうち1人しか市立病院に就職していない附属看護学校の在り方などについても議論しました。

気仙沼市議会9月定例会で、市議になってから5回目の一般質問を行いました。一般質問は気仙沼市全体の課題を取り扱うようにしており、今回は公共施設の将来的な維持管理の問題に力を入れました。神山川の堤防工事に伴う桜並木の伐採、震災検証、復興情報の発信についても質問しました。

東京大学と震災検証

問 震災被害の検証について、昨年6月の質問に菅原市長は「今後の防災対策を推進する上で重要」と理解を示し、9月の質問にも「11月までには情報を入力して震災犠牲者の検証を進める」と答弁しました。その後の状況を伺います。

答 1月に関係機関から亡くなられた方々の情報を入手し、データの整理を行っています。合わせて、気仙沼市の避難状況などを調査している東京大学と調査研究の在り方について協議してきました。今後、同大学と共同研究に関する契約（10月1日から2019年3月31日の設定）を締結し、避難行動における課題を調査することになっています。

一般質問の概要

復興情報の発信強化



問 復興情報の発信を求めた昨年9月の質問後、公民館やスーパーなどに資料を掲示するようになりましたが、資料が更新されていません。復興の仕上げに向けて、情報発信の重要性に対する職員の意識改革、もっと市民に分かりやすい情報提供が求められますが、市の対応を示して下さい。

答 掲示した資料は、事業進捗に合わせて更新することになっていたのですが、過日、更新しました。復興情報の発信は、被災された多くの方々の生活再建、産業再生

に直結する重要な行政事務ととらえています。説明会で説明した資料を公民館等に掲示するなど、最新の情報発信に努めます。また、

神山川の桜並木伐採

問 神山川の桜並木は、県の堤防工事に伴って伐採され、土手はコンクリートで覆われます。景観に配慮した堤防の計画、新設する歩道橋や反松公園の復旧を含め、新たな市民の憩いの場づくりが求められます。市がリーダーシップを発揮

広報・広聴活動に対する職員の見解をさらに高め、これまで以上に積極的に取り組む意識の高揚を図っていきます。

し、住民との話し合いの場を用意して下さい。

答 堤防の上は散策可能で、200mごとに管理用階段を整備する計画だと県から伺っています。市も一度は計画を了承しましたが、左岸の道路側斜面の緑化などを含めて地域住民の意向を再度確認するように県へ依頼しました。事務方としては大変ですが、市としては「朝令暮改」の批判を浴びても、いま必要なことはやった方がいいという気持ちで、県と一緒にやっていきたいです。

河川敷、上流域の桜並木、仮設住宅撤去後の反松公園は、市民の交流の場として活用が見込まれるので、各施設の関連を考慮した歩行環境の創出や草木の植栽などに努めていきます。

公共施設総合管理計画を

問 国は各自治体に公共施設総合管理計画の策定を求めています。この計画は公共施設の維持管理費、老朽化に伴う建て替え費用などを長期的にシミュレーションし、その在り方を検討する重要な計画で、先行した自治体では厳しい結果から「新たなハコモノは建てない」「複合化を進める」と宣言した例もあります。市の策定スケジュールを示して下さい。

答 気仙沼市の公共施設の維持管理費は26年度で約21億円（学校施設や病院を除く）で、当面はこの水準を維持し、将来にわたって可能な限り削減したいです。計画は来年度中の策定を目指しており、施設管理の基本的な考え方は、次期の市総合計画にも反映させるべきです。

公共施設の複合化は、中央公民館の図書館を仮移転したことによる利用者数を見ても、アクセス手段の確保の観点からも有効な手段だと考えています。

